

札幌市立和光小学校の取組【雪に関する教育課程】

1. 研究のねらい

本校では、「地域とともに雪を楽しんだり、雪を克服したりする活動を通し、地域社会の一員としての自覚を育む、子どもの自己有用感・自己肯定感を高める」ことをねらいとした。これまで本校が実践してきた関係する単元と、今回の実践的な研究において開発した単元を組み合わせ、【雪に関する教育課程】を再構築することとした。

6年間における教科等での様々な取組について、三つの観点〔親しむ・遊ぶ・鍛える〕、〔気付く・分かる〕、〔考える・動く〕で分類し、6年間の系統性や発展性について考え、新たな単元等を開発し、試行する中で子どもの育ちを検証することとした。

2. 取組内容

(1) 〔親しむ・遊ぶ・鍛える〕活動の工夫

① 2年生活科「もっとなかよしまちたんけん」～ちいきへのおんがえし～

生活科では地域の公共施設を訪ね、施設の役割やそこで働く人たち、地域の方の楽しみなどを学んできた。また、日頃から安全・安心などで地域の方々にはお世話になっている。本単元の最後に「まちの人たちともっと仲よくなりしたい」や、「まちのために自分が役立てることはないか」という意識が育ち、北区土木センターから「転倒防止の砂入りペットボトル」づくりの依頼を受け、麻生まちづくり協議会の方々の協力を得ながら10月には1,300本の「砂入りペットボトル」を作成することができた。降雪期となった時、自分たちが作成した「砂入りペットボトル」が学校の玄関前や、まちづくりセンター、ショッピングセンターに置かれて地域の方々に活用されている様子に「ぼくたちが作ったんだ!」と誇らしげに伝えている姿があり、2年生の大きな自信となった。



② 特別活動「冬を楽しむ集会」(全校)

本校の特色ある取組の一つ「冬を楽しむ集会」は、2学年ブロック単位で行われている。上学年が下学年をリードし、楽しめるゲーム等を企画して異学年の交流を深めている。今年度は、冬の運動不足を解消するため運動量を多くすることとし、ソリリレーや宝探し、鬼ごっこ等を通し、雪上ならではの運動の醍醐味を味わう集会を楽しむことができた。下学年からは御礼のメッセージが上学年へ贈られ、満足感や自己有用感を高めることができた。



(2) 〔気づく・分かる〕活動の工夫

4年社会科「札幌の除排雪」～北区土木センターによる出前授業～

(1)①にある「ペットボトルづくり」との系統性を図るため、4年社会科では、地域

の除排雪の管理監督を行っている北区土木部冬みち地域連携担当係長らに来校していただき、「札幌市の除排雪」というテーマで札幌市の除排雪システム、携わっているたくさんの人の努力や、費やされている多額の予算などについて動画を交えて説明していただいた。子どもからは「除雪の仕事をしている人は、いつ寝ていますか」や「排雪溝にたくさんの雪が入ると水が溢れませんか」など、多くの質問が寄せられ除排雪についての興味・関心を喚起することができた。学習の最後には、雪対策室から提供された「さっぽろの『除雪』おうち講座」を友達同士で伝え合い、そして各家庭に持ち帰って子どもが家族を相手に紙芝居をすることができ、学習したことを家庭へ繋ぐことができた。



(3) 【考える・動く】活動の工夫

5年総合「あさぶ雪灯りレク in WAKO」

麻生児童会館等が主催している「あさぶ雪灯りレク」への本校児童の参加が少ないことから、この行事とタイアップした学習を開発することを主眼に試行した。今回「あさぶ雪灯りレク」に参加した5年生18名が、その経験を生かしながら、そのイベントのよさを学年へ紹介し、担任から全道各地においてアイスやスノーキャンドルのイベントが行われていることを伝え「あさぶ雪灯りレク in WAKO」を企画・実行する学習を行った。「何個のキャンドルが必要なのか」、「どこに飾ることで地域の人たちに見てもらえるか」など子どもの発想を生かして実施できた。観に来た保護者や地域の方からいただいたアンケートをもとに、今回の取組について検証する予定である。



3. 成果と課題

(1) 成果

「雪があるからこそできる」多様な学習活動を通し、その価値を実感させることができた。また、学習活動を通して下の学年のために役割を果たしたり、地域の方と一緒にやり遂げたり、努力を認めってもらったことから、自分の所属意識を高め、自己肯定感や自己有用感を育むことができた。とりわけ既存の地域行事のとの関連を図る学習は重要と感じた。学習効果の詳細は子どもへの意識調査などにより検証するが、今回の【雪に関する教育課程】づくりに向けて学校全体が指導計画の改善に取り組めたことは一定の成果である。



(2) 課題

今回の取組では、学校独自の三つの観点からその見直しを図った。吟味する時間が十分ではなく、満足できる実践ができたとは言いがたい部分もあった。また、告示された新学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、次年度は教育課程全体の改善を図り、常に子どもが育った姿を具体的に想定しながら指導計画の作成を更に進めていきたい。